

中田かわら版 5月号

～中田地区の地域活動をお知らせします～

発行：中田連合地区経営委員会
制作：中田かわら版制作編集委員会

協力：中田連合自治会 泉区役所
横浜市踊場地域ケアプラザ

「中田」の歴史を学ぶ小学生

—中田小学校 3年4組—

中田音頭

ハア一西に大山 東に港
吹くやそよ風 そよそよと
咲いて開いて 七重八重
愛で結んだ 中田町（まち）

民謡「中田よいとこ」

中田よいとこ 住みよいところ
宮もお寺も ただ一つ
いつも心を揃えて進みや
町は明るく 栄えゆく

今年の「さくらまつり」（中田小学校）で浴衣姿の可愛い小学生たちが踊った中田音頭が、ひととき人目を引いた。「クラスみんなが心を一つに取り組んできた中田音頭。地域の人たちに中田の伝統文化を発信できてうれしい。」同校小学校（蒲田猛校長）の3年4組（担任・安西透先生）の生徒たちは満面に笑みを浮かべた。（この生徒たちは4月から4年生に進級）

昨年9月、クラスの社会科授業で「中田の文化、歴史をぜひ知りたい」という全員の希望から始まった。安西先生も大賛成。資料を集めては研究発表。中田の歴史や地域の活動に詳しい高橋文治郎さん（中下）を臨時講師に招いて勉強会を開いたこともある。昭和42年に中田連合自治会が創立された時代の話から青年団や記念誌『ふるさと中田』が10年ごとに発行されてきた経緯などを聞いた。たまたま目にした『20年史』に「中田音頭」と「中田よいとこ」のことを知り「振付して踊ってみたい」と意見が一致。



「中田音頭」を披露してくれる生徒たち

4年生たちが先輩として踊りの指導に当たる。

私たち大人が忘れかけていた「素晴らしい中田の歴史」と文化・伝統を思い起こさせてくれた生徒たちに拍手と敬意をおくりたい。
（編集委員 宮田貞夫）

～一人ひとりがCO₂を減らす努力をし、美しい地球を子どもたちに残そう！～



高橋文治郎さんから中田の歴史を学ぶ

幸いなことに高橋さんは昭和61年、当時の連合自治会や青年団が「中田音頭」のレコード100枚を作り各学校や公共施設などに寄稿したことなどを覚えていた。その貴重な1枚が学校に残されていた。その当時は安西トミ、福岡徳栄、鈴木新富さんらが踊りを指導して小学校の講堂で練習したり、普及、宣伝に努めたこともあった。今回は踊りの師匠、中村厚子さん（池谷）が何回も教室に来て付きっきりで指導してくれた。立派にやり遂げた生徒たちの姿に安西先生は「一人ひとりが故郷を愛する気持ちを持つことができた。子ども同士のコミュニケーションができ、自信と誇りに繋がると思います」。今年の校内運動会では今の3年生が主体となって踊ることになるだろうが、今度は

6月のイベント

このチラシの情報をより詳しく知りたい方は、踊場地域ケ
アプラザ 葛西（かさい）まで問い合わせください。

TEL 801-2114 FAX 801-2923

Q【町会運動会情報】

6月7日(日)に複数の町内会で運動会が開催されます。

- 6/7(日)・中田踊場…中田町第九公園：9:00～
- ・中西…中田町丸の内公園：8:30～
- ・葛野7町会…葛野小学校グラウンド：8:30～
- ・東原…しらゆり公園野球場：8:30～
- ・向根下…中田小学校グラウンド：12:30～



※葛野7町会…山神前、葛野、葛野東、戸塚苑、春日、山百合、高砂
連絡：各町内会にお問合せください（日程変更の可能性もあります）。

■わが町を語る

富士見丘自治会に暮らして

第57回富士見丘自治会総会がこの4月5日に開催されたところです。中田連合30の各自治会・町内会でも最古参の方です。会員世帯数は800前後とかなり大所帯で三番目に大きな自治会です。昔からうんま（馬）の背と呼ばれるように今でもその片鱗はうかがえる地形になっています。高台に位置しているため、特に火災などの被害には自治会全体でいつも警戒をし、月1回は雨の日は除いて火の用心の夜回りを自治体を中心となって実施しています。



老いも若きも常に安全で安心して住める「防火防犯協調の町」を目指して自治会活動を続けています。昭和47年から住まわせていただいたこの町に感謝を込めて書記1年、会長4年務めさせていただきましたが果たして恩返しができるかどうか疑問です。ざっと主なものを上げてみましょう。

まず、災害時に避難所としても使用できるような自治会館建設のための下準備として富士見丘自治会を地縁による法人化を行いました。

さらに、資源ゴミの自主回収で自治会の収入が増えるようになったこと、お手伝いクラブの活動で高齢者の方のお宅の植木の手入れやお庭の草取りなどで、高齢者にやさしい町づくりの一助にできたこと、安心カラーベルトを引くことでお子様の通学の安全確保に協力できたこと、中田連合の大運動会で15年ぶりに優勝し、老若男女が皆で協力できる絆を確認できたこと、など何とか会長としての面目を保つことができたかと思っています。もちろん役員の皆さまを始め全ての会員の皆さまのご協力によることは申し上げるまでもありません。

私の故郷は信州（長野県）の東部の北佐久郡御代田町というところで自慢の故郷であります。ここに住む子どもたちにとって富士見丘の町は、まさに故郷です。

自分たちのこの町が子どもたちにとって私の故郷よりもっとすばらしい故郷だと自慢できるようなすばらしい町でありたいと思います。それには自治会活動も活発で、皆が常に協力し合えることが最も大事だと思います。昔から言われる「向こう三軒、両隣」が常に協力し合える関係にあることが基本であると思います。

この関係はまだ不十分で、サマーフェスタや運動会などの催しものを通して班の皆さんや子供会や寿会（老人会）などのつながりをうまく活用して、会員の方の絆を深めることが震災や火災などからの減災につながると思います。まさに自治会の役目はここにあります。

子どもたちや孫たちにすてきな故郷を残すためにも、半世紀も続けているこの自治会活動を微力ながらしっかりとバックアップできればと思います。（寄稿 富士見丘自治会前会長 内堀 毅 氏）

「中田白百合地域情報サイト」にて地域の最新の情報や、かわら版バックナンバーなどを調べることができます。www.odoriba-cp.jpへアクセス！！